特集

京都経済の未来を語る

第7弾

KBS京都「京bizX」
竹内キャスター

株式会社 堀場製作所
代表取締役会長 兼 グループCEO
堀場副会頭

今回は、堀場副会頭のご登場です。京都産業の活性化に向けて長年にわたり取り組んできた「京商政策フォーラム」への思いや、将来を担う人財の教育などについて、熱い思いを語っていただきました。

自社の「知恵」をビジネスに活かす

〈竹内〉
まずは京都経済の現状についての見解をお聞かせください。

〈堀場〉
精密機械を扱うメーカーが多い京都企業は、欧米や中国をはじめ世界中からの需要が高く、非常に好調と言っていい状況です。年内はこの流れが続くと見ていますが、今後は米中貿易摩擦や北朝鮮情勢などの政治的な要因がトリガーとなり、円高の進行が景気の足枷になるなど、懸念材料はあると思います。

〈竹内〉
リーマンショックを経験し、グローバルに活躍する京都企業は、少々の事では揺るがない経営基盤を築いたと感じていますが、中小企業ではどうでしょうか。

〈堀場〉
リーマンショックからの10年で自社の経営を見直し、経営基盤の強化に努力した企業とそうでない企業で、明暗が大きく分かれています。今後、体力のない企業は淘汰されていくと考えていますが、こうした状況下で中小企業がいかに生き残っていくかという戦略を考える必要があります。

そこで重要になってくるのが、自社の強み・弱みを的確に把握した上で、その強みや特徴、すなわち「知恵」を活かして、自分たちにしかできない価値を生み出していくようなビジネスを展開していくことです。同様に、大企業でもグローバルでの競争に勝ち残っていくためには、自社の「知恵」を活かすことが非常に重要になります。

ディスカッションを深めることから価値が生まれる

〈竹内〉
産業政策委員会の委員長として、長年にわたり「京商政策フォーラム」を運営してこられましたが、フォーラムの開催を通して京都産業の活性化に向けてどのような思いを持っていますか。

〈堀場〉
「経済を良くしよう」、「商売を強くしよう」という一方的な啓発ばかりでは、産業全体の活性化には不十分だと感じていました。産業の活性化においても、京都というまちが持つブランドや歴史などの「京都の知恵」を活用することが重要です。文化と産業をうまく結び付け、京都の知恵を最大限発揮することが、京都経済・産業を活性化させていくと考えています。

京商政策フォーラムは今年で10回目の開催を迎えますが、毎回、役員・議員をはじめ100名を超える参加者が集まり、真剣に議論を深めています。この中で私が特に重視していることは、参加者が自らの意見を発言し、参加者同士でディスカッションを深めることです。多種多様な意見を交わすことで新たな発見やアイデアが生まれ、そこに価値が生まれると考えています。

フォーラムでは、「教育」を主要なテー

マとして取り上げています。記憶力を競うだけの教育ではなく、創造性や独創性を養うような教育の重要性を改めて考え、これからの日本に必要な人財を育てるための教育のあり方について、熱い議論を交わしています。

〈竹内〉
京都がまちの魅力を高め、他都市との競争の中でリードしていくためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

〈堀場〉
他の地域から大学進学で京都に来た学生さんたちが、京都の企業に就職し定着してくれるようなモデルを作っていくことが必要だと感じています。京都の知恵の一つである「大学のまち」を活かし、学生が将来にわたって住みたくなるようなまちにしていくことで、高齢化や人手不足などの社会的課題の解決につなげることができます。

こうした取り組みはすぐに成果が出るようなものではないため、辛抱強く継続していく努力が必要です。企業も行政もすぐに成果を求めますが、将来的に大きな成果を得るためには、長期的なビジョンのもとで少しずつ努力を積み重ねることが重要です。

冷静な判断のためには「脱力」が重要

〈竹内〉
堀場副会頭はさまざまなことにチャレンジしてこられ、失敗したように見えることも、振り返って見れば後々の成功につながっていることが多いように思います。これは長期的な視点で物事を見ているからでしょうか。

〈堀場〉
それもありますが、何より、物事が〝ほんまもん〟かどうかを見抜くことが重要です。〝ほんまもん〟であれば、今は価値が低くても投資して時間をかけることで、必ず成果が出てくるものです。〝ほんまもん〟を見抜く力を磨くためには、失敗も含めて若い時からいろいろな経験をしておくことが必要です。

私自身、若い時からいろいろな修羅場を経験しましたし、もちろん失敗もたくさんしました。修羅場を切り抜けるために努力し、その経験を糧にすることで自分自身がさらに強くなってきたように思います。

〈竹内〉
堀場副会頭は、ONでもOFFでも常に人生を楽しんでおられるように見えますが、その秘訣はどこにあるのでしょうか。

〈堀場〉
私は、人生でもビジネスでも「脱力する」ということが重要だと考えています。もちろん手抜きするということではなく、さまざまな修羅場と失敗を経験することで多少の事では動じない心の余裕が生まれ、冷静に物事に取り組むことができるようになるのです。私が社長に就任した時は3期連続で減収減益でしたが、創業者である父からは「命を取られる時と明日食べるものがない時以外はパニックになるな。信念を持って取り組めば必ず良くなる」と声をかけられ、その一言でとても気が楽になりました。

〈竹内〉
最後に、将来を担っていく若手経営者にメッセージをお願いします。

〈堀場〉
経営者には、現場を大事にしてほしいですね。実際の現場を見ずに、上がってくる情報だけで判断していると、いずれ大きな間違いを犯すでしょう。できるだけ現場を見て、現場とのコミュニケーションを密にすることが大事です。京bizも常に現場を重視して制作されているから、11年間続いているのではないでしょうか。

※このインタビューの模様は、5月25日の「京bizX」で放送されました。

[京 bizX]
毎週金曜日21:00～ 22:25 KBS 京都テレビにて放送中。